

## ジョロダ ローラースケート 取扱説明書



型式 : SAS110N3F80 【アルミ製ヘッドレス】

ジョロダ・システムの最適利用のため、  
ジョロダ専用レールを使用してください。

製造元 : Joloda Hydraroll Ltd(英国)  
日本国内総代理店 : 日本ホデーパーツ工業株式会社

## 1. まえがき

この度は、ジョロダ・ローラースケートをお買い上げいただきありがとうございます。  
本製品は、トラック内においてパレットを移動する為のシステムです。  
ご使用前には、必ずこの取扱説明書をよくお読みいただき、記載された内容に従って正しくお使いください。  
本書は紛失しないように大切に保管してください。  
本製品を他のお客様にお譲りになる場合は、必ず本書も合わせてお渡してください。

## 2. 概要

本製品はパレット荷役システムのパイオニアである、英国ジョロダ社にて設計・製造された荷役システムであり、ジョロダ・ローラースケート本体(以下本体と呼ぶ)と起こし棒の組み合わせでトラック内においてパレットを移動するためのシステムです。  
このシステムはあらかじめトラック荷台床面に埋め込まれた専用レールの中を、本体が移動することによりパレット(荷物)を移動させます。  
スペースの限られた作業域での荷役に最適で、操作も簡単であり、安全且つ迅速な荷役作業ができます。

## 3. 本製品の特長

- \* 本体フレームにアルミを採用。シンプルな内部構造で、従来の鉄製と比べて約5kgの軽量化を実現。
- \* 本体フレームの上面に縦溝模様をつける事により、パレット(荷物)の横ズレを軽減。
- \* 駆動部は長年実績のあるリンク機構を継承し、従来の鉄製ジョロダと同じ高強度の材質を使用。
- \* 最大積載量は1100kgであり、フラットタイプのアルミ同種製品で最大の積載量。
- \* ヘッドレスのフラットタイプなので、本体をレールから抜いて後方に持ち運ぶ必要がなくパレットの下をくぐらせて後方に引き出すことができ、安全で効率の良い連続作業が可能。
- \* フラットタイプの構造上、専用の起こし棒になります。鉄製及びアルミ製ヘッド付きの起こし棒とは異なります。

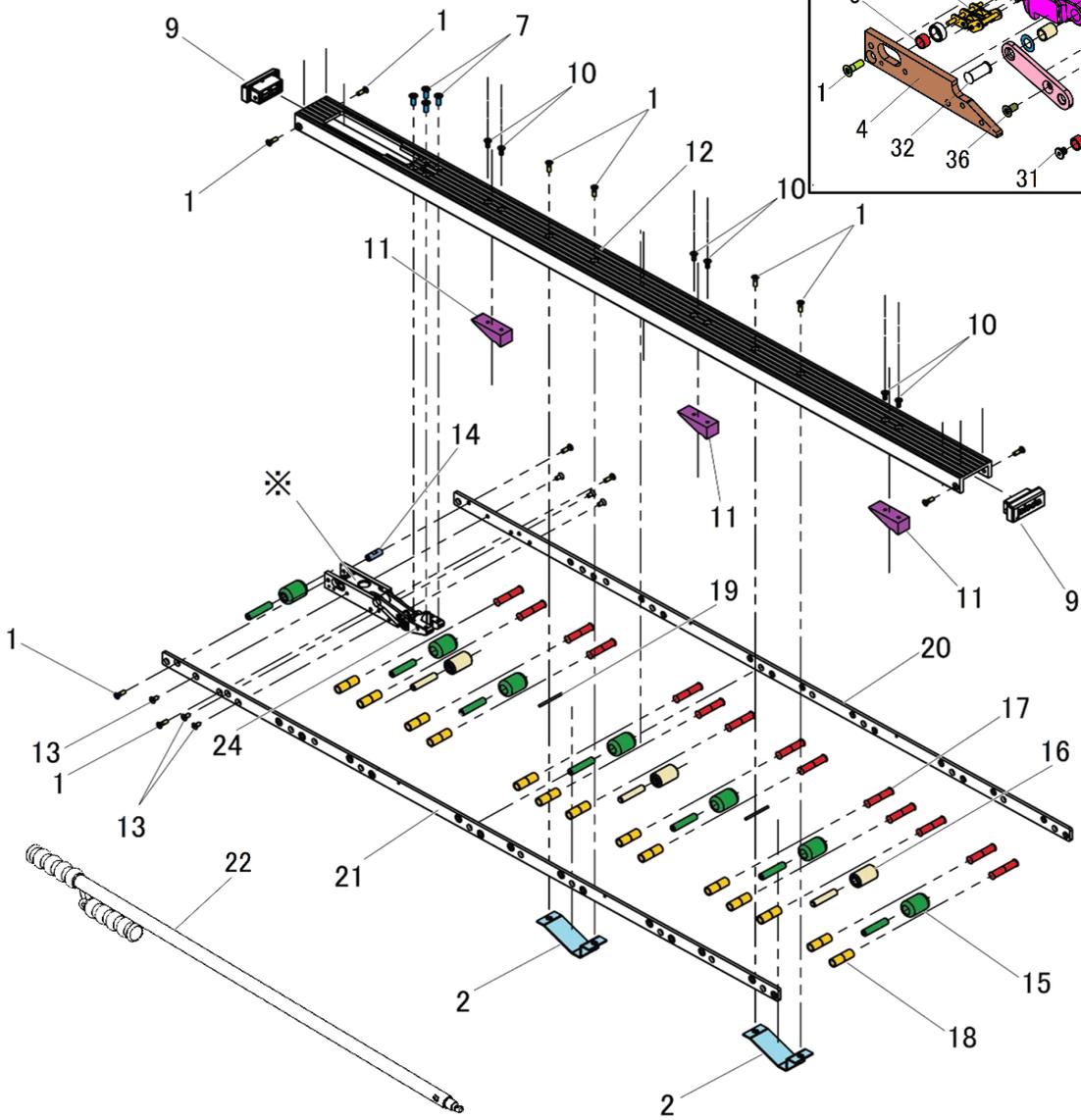
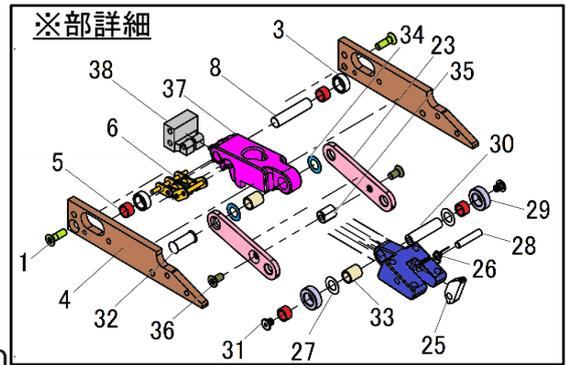
## 4. 使用上、安全上のご注意

ご使用になる前に以下に記載の「ジョロダ・ローラースケートのしくみと能力について」、「ジョロダレールについて」、「操作方法」、「使用上、操作上の注意事項」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。  
注意事項は安全に関する重大な内容を記載していますので必ず守ってください。

 <b>警告</b>	誤った扱いをすると人が死亡又は重傷を負う可能性が想定される内容を示します。
 <b>注意</b>	誤った扱いをすると人が傷害を負ったり物的傷害の発生が想定される内容を示します。
 <b>禁止</b>	禁止(してはいけないこと)を示します。

# 5. 各部の名称

梱包内容：アルミスケート本体 x 2本  
 起こし棒 x 2本  
 取扱説明書 x 1部



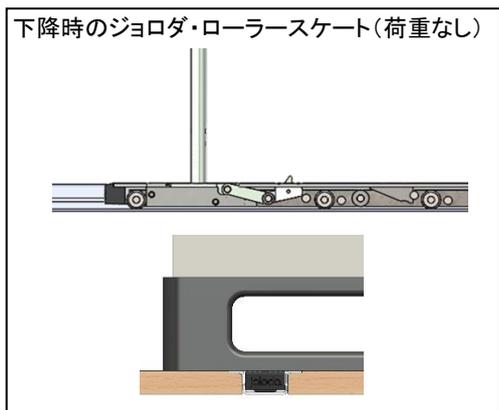
アイテム	部品番号	商品名	数量
①	SAY15009000	トルクス 皿 スクリュー M5 x 16	12
2	SAA16001000	リテンションプレート	2
③	SAY04004000	ベルクランク用シェル型ローラー	2
4	SAY0601200P	リンケージプレート	2
5	SAY15021000	ベルクランク用ブッシュ M8	4
⑥	SAY06013000	チェーンASSYキット	1
7	4AD027	トルクス 皿 スクリュー M6 x 16	4
8	SAY15020000	ダウエルピン 8 x 36	1
⑨	SAY12005100	エンドキャップ	2
⑩	SKY15007100	ソケットスクリュービス	6
⑪	SAY0700600P	ランプ	3
12	SAS110N3F8A	本体フレーム	1
13	4AC015	皿 スクリュー M5 x 10	6
14	SAY1000900P	リンクスペーサー	2
⑮	SAA04004000	メインローラー	7
⑯	SAA04005000	ピボットローラー	3
⑰	SAY09014000	ボギーリベット	14
18	SKY1000300P	ボギースペーサー	14
19	SAY15011000	ダウエルピン 3 x 45	2

アイテム	部品番号	商品名	数量
20	SAY0601400P	ボギーサイドプレート左	1
21	SAY0601410P	ボギーサイドプレート右	1
22	SAA20001000	起こし棒	1
⑳	SAY0200400P	ベルクランクリンク	2
⑳	SAY1300800P	ベルクランクリンクマウント	1
㉕	SAY0100500P	パレットストップブレード	1
26	SAY15014000	トーションスプリング	1
27	SAY15025000	マウント用ワッシャー M5	1
28	SAY15015000	ダウエルピン 5 x 25	1
㉙	SAY04006000	マウント用シェル型ローラー	2
30	SAY090160HG	マウント用ピン	1
31	SAY15032000	マウント用スクリュー M5 x 8	2
⑳	SAY09017000	ベルクランクリベット	1
33	SAY15030000	マウント用ブッシュ M8 x 10	2
34	SAY15031000	ベルクランク用ワッシャー	4
35	SAY1000800P	ベルクランクスペーサー	1
36	SAY15024000	トルクス 皿 スクリュー M5 x 10	2
⑳	SAY010070HP	ベルクランク	1
38	SAY0601500P	チェーンブロック	1

○印アイテム番号は、重要消耗品及び消耗品です。

※数量は本体1本あたりの数

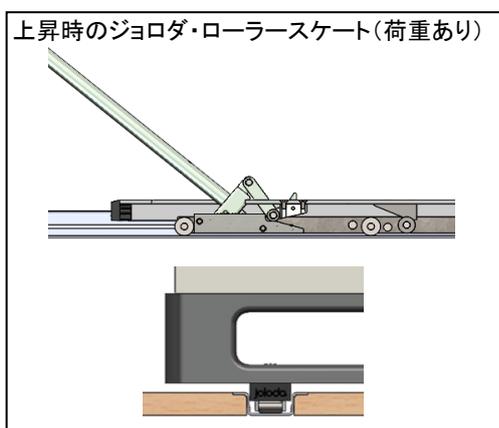
## 6. ジョロダ・ローラスケートのしくみと能力について



本体は必ず専用レールの中で使用します。

本体は下降時でも上昇時でも、ローラーが回転して前後へ動く構造になっております。

下降時には本体だけが移動します。



本体をパレット(荷物)の下に入れて起こし棒を使ってリフトアップ(上昇)させるとパレット(荷物)を載せたまま移動する事ができます。

上昇→移動→下降の作業によりトラック内でパレット(荷物)を移動して設置する事ができます。

### ジョロダ・ローラスケートの仕様(能力)

商品名	全長	有効長さ
ジョロダ(アルミ製)フラット本体 L=1100	1345.5mm	1100mm

1セット(2本)の最大積載量	1100kg
上昇高	17.1mm

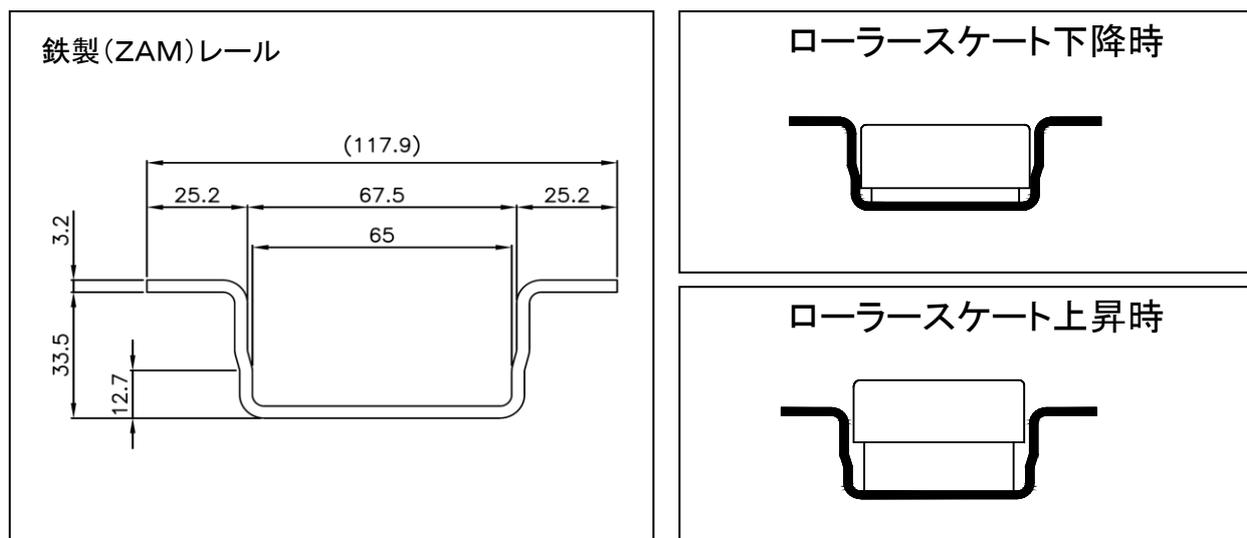
※床面(レール上面)から上昇する高さ 15.1mm

ただし、『最大積載量1100kg』はパレット寸法(奥行)が1100mmである事、パレット上の積荷の荷重が均等に下へかかる状態の積み方である事、専用レールを使用している事、専用レールが横根太間でたるんでいない事、専用レールも本体も新品であることなど、最適な条件での数値です。  
積荷の状態やレールの状態、使用状況など条件により、この数値は低くなりますのであくまで目安の数値としてお考えいただき、状況を見ながらこれ以下の重量で使用してください。

## 7. ジョロダレールについて

### ジョロダ専用レール(JBジョロダレール)の特長

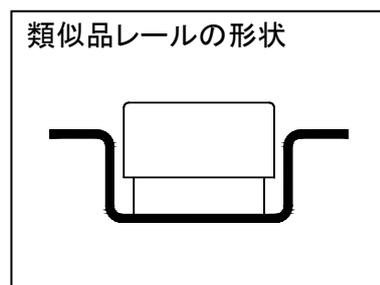
- \* ジョロダ専用レール(JBジョロダレール)の形状は下図のように底の方が狭くなっており、本体とレールの側面との隙間を少なくしている為、本体が自動的にレールの中央に位置するようになり、手動力も少なく、真っ直ぐにスムーズな走行が行われます。
- \* レールの中央を真っ直ぐにスムーズに走行する為、レール、本体共傷みが少なく長持ちします。



安全、確実な荷役作業を行ない、かつ製品を長持ちさせる為にも、本体を使用する時は必ずJBジョロダレールを使用してください。

- \* JBジョロダレールは、鉄製(ZAM)、ステンレス製、アルミ製を用意しております。使用目的、使用状況によりご選択ください。

アルミ製ジョロダレールをご使用の場合は、鉄製やステンレス製に比べて強度的に弱い為、レールのたるみが発生してローラーの動きが悪くなり、操作しにくくなる場合があります。鉄製やステンレス製の約6割(660kg)を最大積載量としてお考えください。



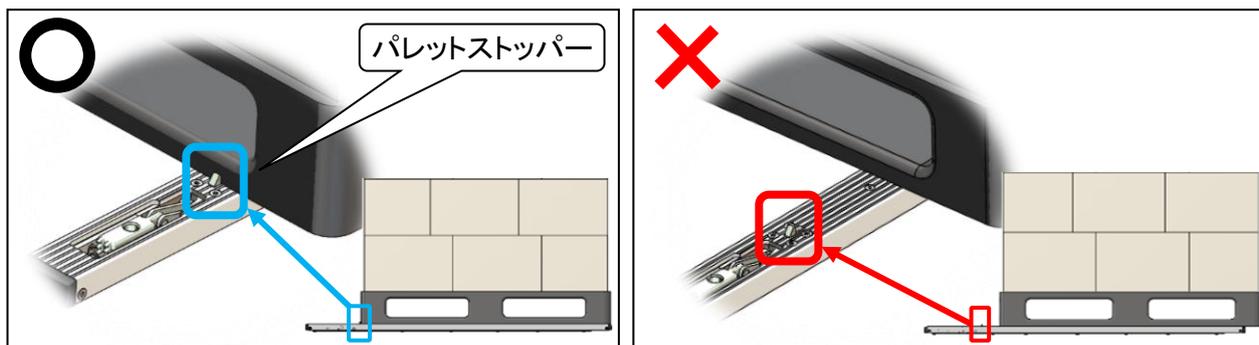
類似品のレールの場合、本体とレール側面との隙間が大きい為、左右に蛇行して走行したり、右端又は左端に片寄って走行したり安定したスムーズな走行ができません。この事により、本体のローラー部の傷みも早くなり、本体のフレームも曲がったり、歪んだりしやすくなります。また、レールも摩耗しやすく長持ちしません。

## 8. ジョロダ・ローラースケート操作方法

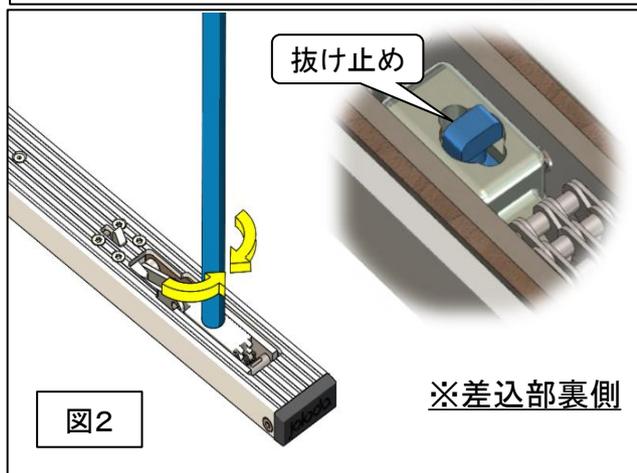
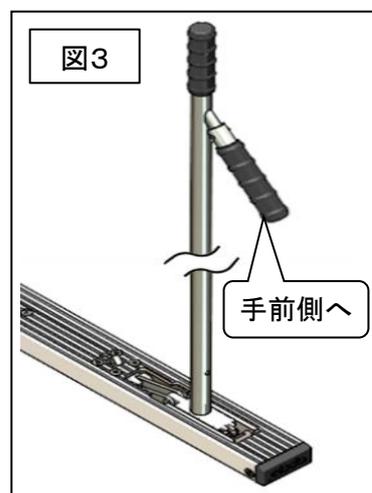
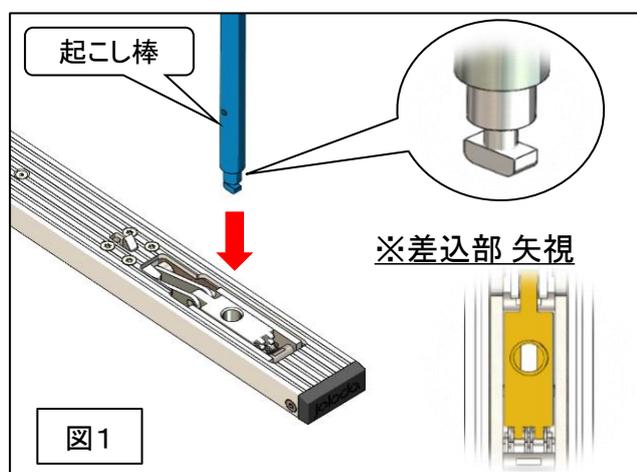
2本のジョロダ専用レールと2本の本体及びヘッドレス仕様専用の起こし棒によって使用してください。起こし棒で本体をリフトアップさせ、荷物後部から手押しにより、パレット(荷物)を移動させます。

1. ジョロダレール内に本体を入れて、パレット(荷物)の下へすべり込ませてください。  
(この時本体は下降の状態)

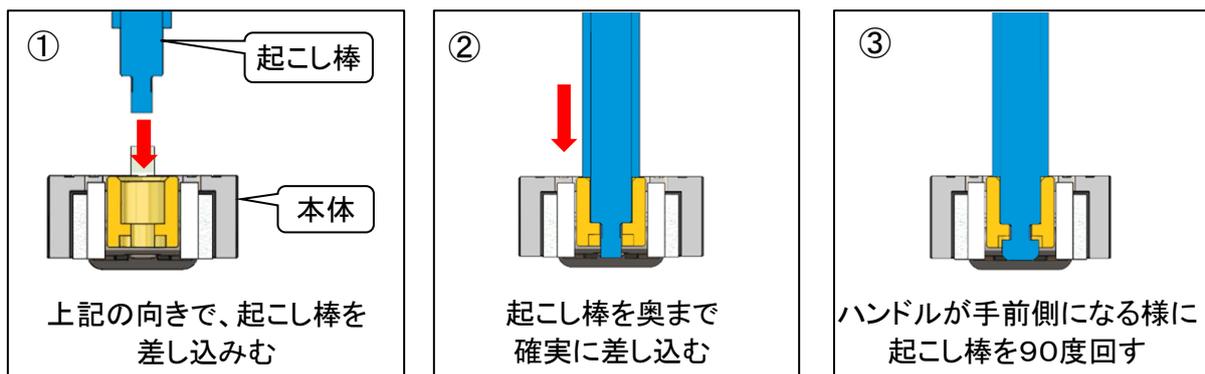
注)この時、パレット(荷物)の端がパレットストッパーまぎわの位置まで来ように入れてください。



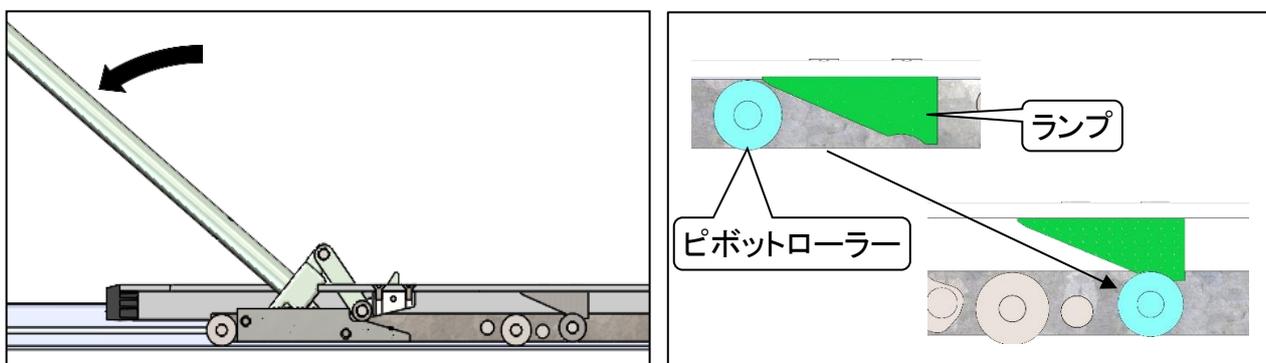
2. 本体上面にある穴に、図1の向きで起こし棒を奥まで差し込み、手前側に90度回転させてください。(差込口は、丸穴の先に起こし棒の先端が入る形状になっており奥まで差し込むことができます。)手前側に90度回転させると、図2のように差込部の裏側で起こし棒の先端が引っ掛かり起こし棒の抜け止めが完了します。必ず抜け止めをしてから、次の作業に移ってください。起こし棒の取っ手は、90度回した時に手前側にくるようにしてください。(図3)



## ※起こし棒差込 断面イメージ



3. 片方の起こし棒を両手で持って手前に倒していくと、ピボットローラーがランプの上に乗り上げリフトアップします。この時、起こし棒が止まるまで倒してください。



注) 起こし棒を操作する際は、必ず片側ずつ両手で確実に作業を行ってください。  
片手で操作するのは危険です。



注) 完全にリフトアップするまで、絶対に両手を離さないでください。  
完全にリフトアップする手前で手を離すと、本体が下へ落ち込み、  
その反動で起こし棒がはね戻ったり、飛び出したりして危険です。



注) 新品時は、起こし棒を約50度倒せばリフトアップします。  
使用を重ねる事により部品が摩耗してくると、起こし棒を倒す角度が大きくなってきます。  
あくまでも目安であり、その都度確実にリフトアップした事を確認してください。



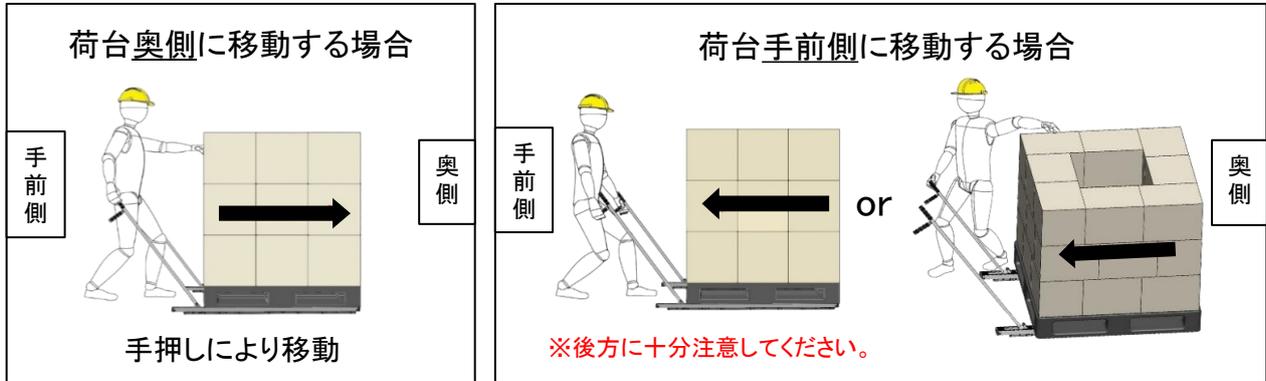
4. 片方の本体が完全にリフトアップしてから、もう片方の本体も同じ手順でリフトアップさせてください。

注) 必ず片方ずつ順番にリフトアップさせる様にしてください。  
両方一度にリフトアップさせるのは危険です。



5. 両方の本体がリフトアップすると、パレット(荷物)は床面より浮いた状態となり、移動させることができます。

6. 荷台手前側から奥側にパレット(荷物)を移動させる場合は、片手で起こし棒のメインの取っ手を持ち、もう片方の手でパレット(荷物)を押えながら、手押しにより移動させてください。  
荷台奥側から手前側に、パレット(荷物)を移動させる場合は、左右の起こし棒の折りたたみ取っ手を両手でしっかり握りパレット(荷物)を手前に移動させるか、パレット(荷物)横に回り、片手で起こし棒のメインの取っ手を持ち、もう片方の手でパレット(荷物)を押さえながら、移動させてください。  
手前側へ後ろ向きでパレット(荷物)を移動する際は、後方に十分注意してください。



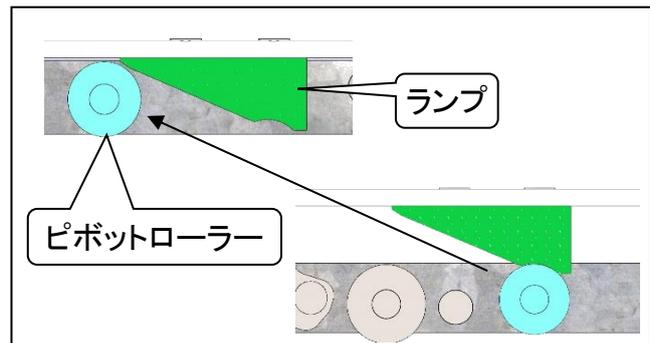
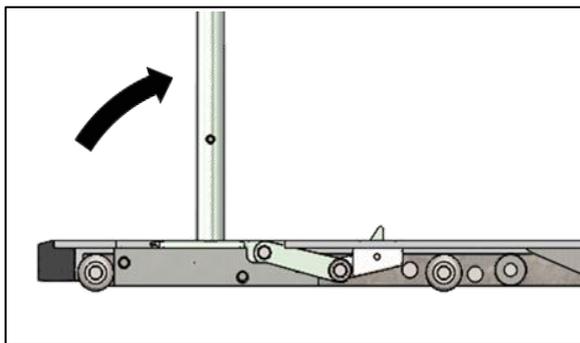
注)パレット(荷物)を移動する際、動かす方向に人が居ないか、障害物が無いか、十分に確認してから移動してください。



注)パレット(荷物)を移動する際、自分でコントロールできる範囲の速度で作業を行ってください。



7. 目的の場所までパレット(荷物)を移動し、片方の起こし棒を両手でしっかり持ち、垂直の状態まで前方へゆっくり戻してください。次に、もう片方の起こし棒を同じ要領で前方へ戻してください。(本体がローダウンします)



注)起こし棒を操作する際、必ず両手で確実に作業を行ってください。  
片手で操作するのは危険です。



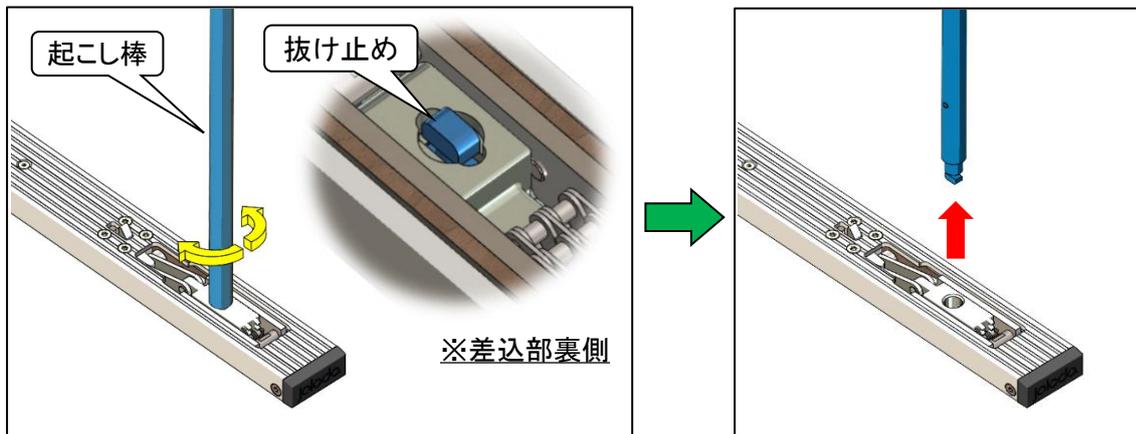
注)完全にローダウンするまで、絶対に手を離さないでください。  
途中で手を離すと、本体が下降するはずみで起こし棒がはね戻ったり、飛び出したりして危険です。



注)必ず片方ずつ順番にローダウンさせる様にしてください。  
両方一度に行なうのは非常に危険です。



8. 両方の本体が下降すると、パレット(荷物)は床面に設置、安定します。  
この時点で、本体とパレット(荷物)とは約2ミリの隙間が生じ、本体は簡単に引き抜くことが出来ます。
9. 左右の起こし棒を本体から抜き、一時、作業の邪魔にならない場所に置いてください。  
起こし棒を抜く際は左右いずれかに90度回し、先端を縦方向にしてから、上方向に引き抜いてください。



10. 本体をパレット(荷物)の下から抜き、次の作業の場所に移動させ、次の作業に入ります。

ヘッドレス仕様の為、本体を持ち上げずスムーズな連続した荷役作業が可能です。  
詳細は10ページ・11ページを確認してください。

注)トラック後部にて、フォークリフトでパレット(荷物)を積み下ろしする際は、  
積む時も、下ろす時も、本体は必ず下降の状態にしてください。  
また、起こし棒は必ず本体から抜いた状態で作業を行ってください。



注) 荷役作業が終了して本体を使用しない場合は、レールの中に  
本体を入れた状態にせず、保管場所に格納してください。  
レールの中に本体を入れた状態にしておくと、トラック走行中に  
本体がレール内を前後に移動する為、本体やレールが傷む原因となります。  
保管場所でも走行中に本体が移動しないように固定してください。





**本製品はヘッドレス仕様の為、レール内において本体をパレット下をくぐらせることができます。**

パレット下をくぐらせる方向はパレットストッパーの機能により一定方向に決まっています。起こし棒差込側からスライド移動させます。



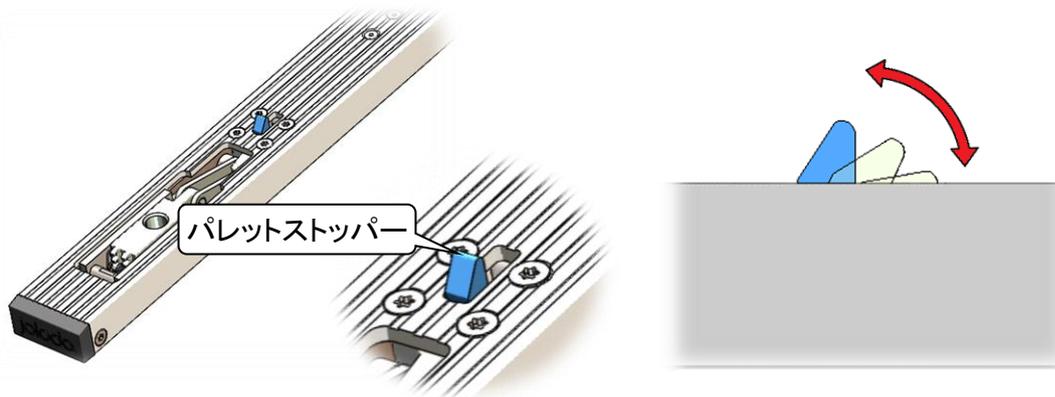
### パレットストッパーの機能

パレットストッパーは一定方向に倒れ、その反対方向には倒れません。

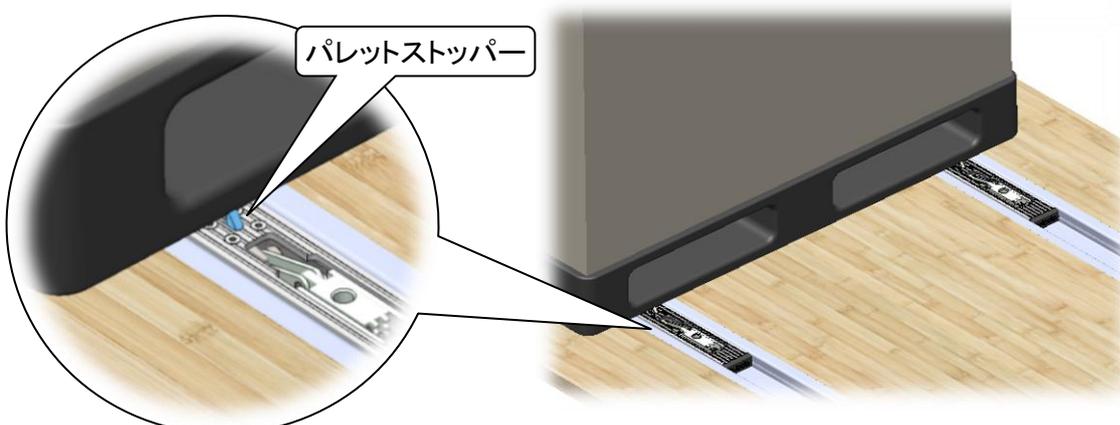
倒れる状態を利用して、本体をパレット下にくぐらせることができます。

立ち上がった状態ではパレットに当たり、本体がパレット下へ逆行することを防ぎます。

注)パレットの底面形状により、途中でストッパーが完全に立ち上がることがあります。その位置から逆行させることはできません。注意してください。

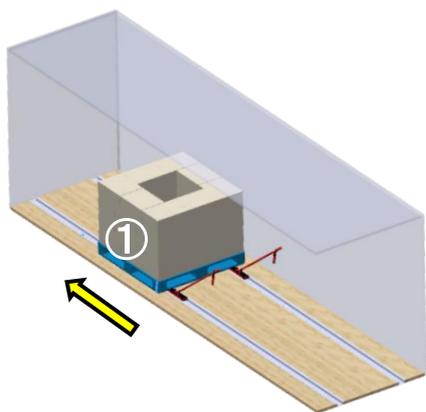


パレット(荷物)の反対側から、パレットストッパーが完全に立ち上がり、本体が逆行しないことが確認できたら、スライド移動が完了します。

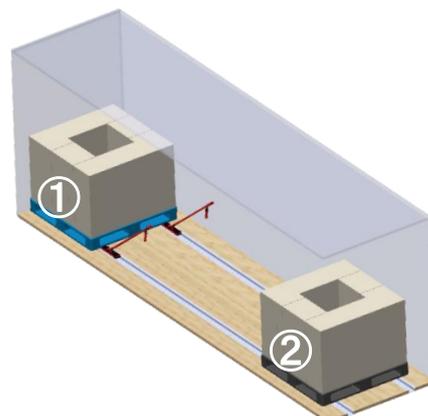


このスライド移動を利用して、連続荷役をすることが可能です。次ページに例を掲載しています。

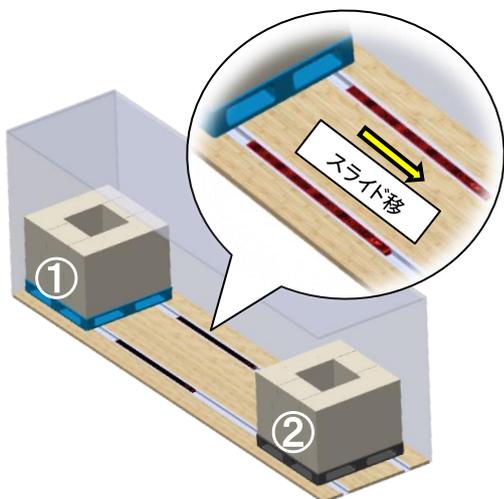
●連続荷役の例【庫内積込時】 ※画像はイメージです。実際の色とは異なります。



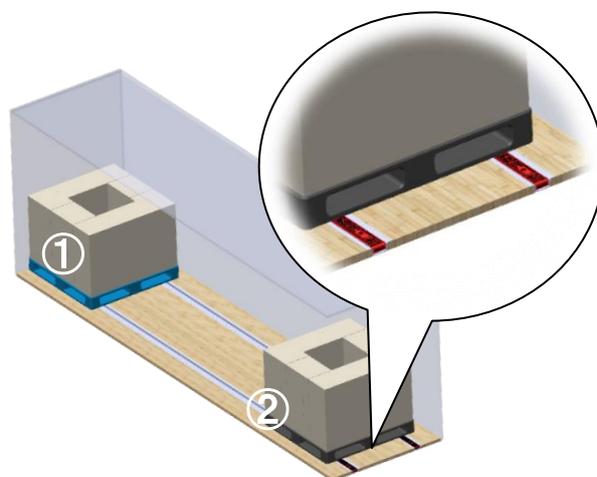
1、前述の操作方法で、①のパレット（荷物）を荷台奥に運び入れます。



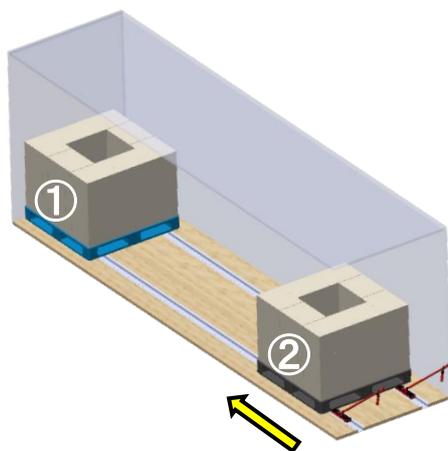
2、①の移動が終わり、②のパレット（荷物）が荷台に置かれました。



3、本体から起こし棒を抜き、レールから本体を持ち上げずに②のパレット方向にスライド移動させ、パレット下にくぐらせます。



4、本体のパレットストッパーが機能し本体が逆行しないことを確認します。



5、前項8の操作方法で②のパレット（荷物）を荷台奥に運び入れます。

1～5を繰り返して、連続荷役します。

※起こし棒を倒しパレット（荷物）をリフトアップできるスペースが必要です。

## 9. ジョロダ・ローラスケート使用上、操作上の注意事項

1. 本体は必ずジョロダ専用レールと一緒に使用してください。
2. 本体を使用する場合は、必ず荷台が水平な状態で使用してください。

注) 本体は上昇時、下降時にかかわらず、ローラーが回転して動く構造になっています。  
急斜面や、荷台が傾斜のついた状況で使用すると、本体や荷物がすべり落ちたり、車外に放り出されたり、非常に危険です。



3. 本体を使用中に車(トラック)を動かしたり、車(トラック)が勝手に動いたりしない様にしてください。

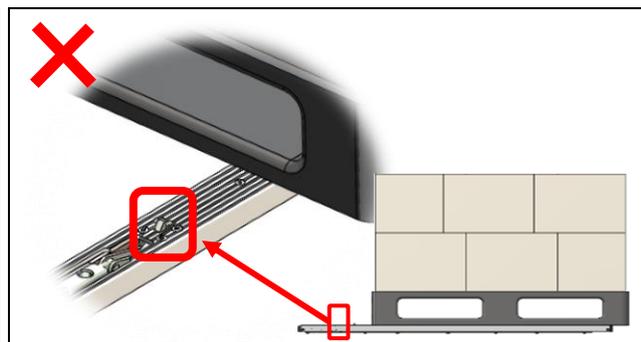
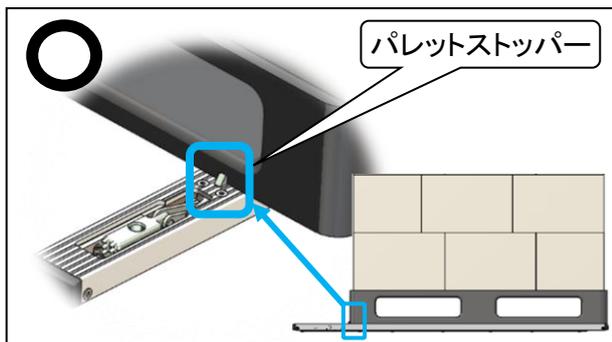


4. 本体は必ず、最大積載量以内で使用してください。



5. パレットサイズは、1100mm(本体差込方向)のものを使用してください。

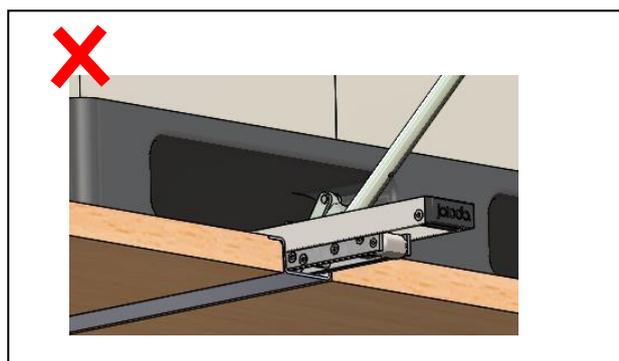
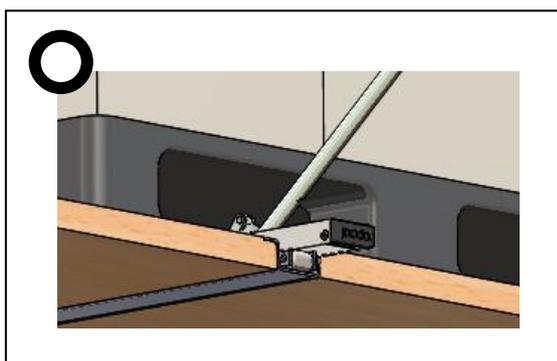
6. パレット(荷物)の下に本体を入れる際は、パレットストッパーまぎわの位置まで確実に入れてからリフトアップしてください。



7. トラック後部で、パレット(荷物)をリフトアップする際は、必ず全てのローラーがレール内に入っている位置で操作してください。

フォークリフトなどでパレット(荷物)を荷台に積む位置は、レールの最後端より内側(奥)に積んでください。

全てのローラーが、レール内に入っていない状態でリフトアップすることは非常に危険であるとともに、本体破損の原因となります。



8. パレット上の荷物は、できる限り均等に積み、パレット及び本体にかかる荷重が均等になるようにしてください。

9. パレット上の荷物は、本体の上昇時、移動時、下降時に荷崩れを起こさないように安定した積み方を行なってください。

不安定な積み方しか出来ない場合は、倒れたり、崩れたりしないように確実に固定してください。



10. 本製品の起こし棒は、フラットタイプ専用の起こし棒です。起こし棒先端と差込口の形状によって、起こし棒の抜け止めが完了します。リフトアップの際は確実に抜け止めができていないことを確認してください。抜け止めができていない場合、作業中に起こし棒が抜けてしまい事故やケガの原因になり危険です。



11. 起こし棒を入れてリフトアップする際、確実に上昇するまで絶対に手を離さないでください。途中で離すと本体が落ち込み、その反動で起こし棒がはね戻ったり飛び出したりするので危険です。



12. 本体をリフトアップさせる際、片方ずつ確実にを行なってください。両方一度に行なう事は非常に危険です。



13. パレット(荷物)を移動する際、動かす方向に人が居ないか、障害物が無いか、十分確認してから動かしてください。



14. パレット(荷物)を移動中は、急に人が現れたり、障害物が現れる事も考えられるので、常に注意を払いながら作業してください。



15. レール部分、本体部分、パレット下部、パレットと荷台床面との隙間などに、手や足や体の一部を入れないでください。はさまれる恐れがあり、非常に危険です。



16. パレット(荷物)を移動する際、自分でコントロールできる範囲のスピードで行なってください。

パレット(荷物)をスピードをつけて動かすと、積荷が崩れてはさまれたり、パレットや荷物が車外に放り出されて事故につながる恐れがあり、非常に危険です。



17. 本体をローダウンさせる際、起こし棒を使って片方ずつ確実に下降させてください。両方一度に行なうのは非常に危険です。



18. 本体をローダウンさせる際、完全に下降するまで起こし棒から手を離さないでください。途中で手を離すと本体が下へ落ち込み、その反動で起こし棒がはね戻ったり、飛び出したりして非常に危険です。



19. トラック後部にて、フォークリフトなどでパレット(荷物)を積み下ろしする際は必ず本体はローダウンの状態にし、起こし棒は抜いた状態で作業を行ってください。リフトアップの状態、本体の上に直接パレット(荷物)を積む事は非常に危険であるとともに、本体破損の原因となります。 
20. 本体を使用しない場合は、トラック走行中に本体がレール内外を移動する事が無い様に、保管場所に動かない状態で格納してください。 
21. レール内で使用せずに、一般平面で直に本体を使用する事は絶対にしないでください。非常に危険です。  
22. 本体を荷台から地面へ放り出すなど、乱雑な扱いはしないでください。本体破損の原因となるだけでなく、本体の寿命も縮めます。 
23. 本体を分解したり、改造しないでください。 
24. 荷役作業中に本体がレールと干渉して動かなくなった際、無理に動かそうとせずもう一度ローダウンとリフトアップをやり直してください。 
25. この本体には、緊急用ブレーキ装置(オートダウン機能)はついておりません。本体がレール後端から脱落することが無いように、レール側に本体脱落を防止する加工を施してください。 

## 10. 日常の点検と修理について

1. 常時、レール内の乾燥、清掃を行ってください。  
レール内にゴミやほこりが溜まっていると、本体のローラーが巻き取ってしまい、動きが悪くなったり、破損の原因となります。
2. 常時、本体も乾燥、清掃を行ってください。  
ゴミやほこりが付いて固まってくると、ローラーの動きが悪くなってきたり、破損の原因となります。ゴミなどを定期的に取り除いてください。
3. 起こし棒も定期的に見視チェックを行ってください。  
亀裂・曲がり等が発見された場合は、直ちに使用を中止してください。  
そのまま使用を続けると危険です。   
新品を購入いただくことをお勧めいたします。

4. レールに注油したり、塗ったりしないでください。油を塗ると、ほこりが付着しやすく、ローラーが回転しにくくなり、動きが悪くなります。ローラーが回転せずレールの上をすべる状態となり、ローラーが偏摩耗をして寿命も縮まります。



5. 本体に潤滑剤などを注油したり、塗ったりしないでください。潤滑剤は、ローラーのベアリングのグリスを流してしまい、ローラーの寿命を著しく縮めます。



6. 本体の各部品は、使用を重ねる事により確実に摩耗してきます。定期的に、作動状態、各部品の摩耗状態、ガタなどをチェックして、状態によっては修理に出してください。(修理は有償)  
特に部品リストに記載してある重要消耗品及び消耗品は頻繁にチェックしてください。

7. ローラーの回転が極端に悪くなった場合は、ローラーが摩耗して摩り減っている事や、フレームが曲がって歪んでいる事などが考えられます。  
この様な場合は修理に出してください。(修理は有償)

8. 起こし棒を手前に倒しても、本体が完全にリフトアップしない症状が出た場合は、直ちに使用を中止して修理に出してください。  
そのまま使用を続けていると、リフトアップする際に完全に上がり切らない状態から下へ落ち込み、その反動で起こし棒がはね戻ったり、飛び出したりして危険です。



注) ベルクランクとベルクランクリンクは、本体をリフトアップする際、大きく荷重が加わる部品で摩耗も起きやすい部分です。  
強度的にも、摩耗に強い材質を使用していますが、使用を重ねる事で、摩り減ってガタが出てきます。  
ガタが大きくなると、起こし棒を倒してもピポットローラーがランプの坂を上り切る事ができず、ランプの溝に入る事ができなくなり、リフトアップする事が出来ません。  
この様な場合は直ちに修理に出してください。

注) 新品時は、起こし棒を約50度倒せばリフトアップします。  
使用を重ねる事により、部品が摩耗して起こし棒を倒す角度が大きくなってきます。  
摩耗度を見る目安にして下さい。

9. 修理については、代理店または取扱い店へお問い合わせください。

## 改訂履歴

ページ	変更内容	誤	正	日付
3	①の部品名の誤記訂正。	SAY0700500P	SAY0700600P	2025.02.18